

不登校児 心重ねて20年

川崎で来月2日、南米音楽演奏会

不登校児らを支援するNPO法人「フリースペースたまりば」(川崎市高津区)が7月2日、開設20周年を記念してコンサートを開く。プロの音楽家に交じり、子どもたちも南米音楽のフォルクローレを演奏する。

「たまりば」は、元塾講師や都内に住む30〜40人だ。師で理事長の西野博之さん(51)らが中心となり、1991年から同区内のアパートで不登校の子どもたちの居場所作りを始めた。2003年からは、同区内の「市子ども夢パーク」に開設した「フリースペースえん」に拠点を移して活動を続けている。

学校の教室のように整然とならんだ机やいすはない。子どもたちは大部屋の中で楽器を演奏したり、大きな声で歌ったり、料理をしたりと、好きなことをして過ごす。「たまりば」の理念に共感したプロのソプラノ歌手や楽器の演奏家、

のは約90人。通うのは市内



南米の民族楽器「ケーナ」を演奏する子どもら。川崎市高津区下作延5丁目

「学校外で生きる子 存在知って」

料理人らが交通費程度の謝礼で講師を引き受けている。

弦楽器「チャランゴ」を演奏する高藤光彬さん(18)は、中学1年の1学期から中学校へ行くのをやめ、母の勧めで「えん」に通い始めた。友人はいたし、いじめられたわけではない。はっきりとした理由はないが、学校に行くのが嫌になったという。

6年間近く「えん」に通い、朝から夕方まで「チャランゴ」を演奏するうちに魅力にとりつかれた。1年半前から週5日、運送会社で配達アルバイトをしている。来春には定時制高校を受験するつもりだ。

「ここに通って大好きなチャランゴと出会い、やりたいことが見つけられた」と笑顔で話す。

2日は講師のフォルクローレの演奏家のほか、高藤さんら「えん」に通う子どもら約20人も出演する。西野さんは「この子どもたちは音楽で心を通い合ってきた。演奏会は自信を深める場でもある。学校外で生きる子どもたちの存在を知って欲しい」。

コンサートは2日午後3時から川崎市川崎区のサンピアノかわさきで。チケットは2500円。問い合わせは「たまりば」(044-80333-7562)へ。

(鹿野幹男)